

仁徳天皇陵古墳の盗掘に纏わる余話

メモ)鉄本 2022.11.13

来館者からの質問に盗掘に関する質問が多数あり、情報を整理してみました。

1. 盗掘及び茶臼山陵に関する『全堺詳志』の記述について

- 1) 著者：高志芝巖(たかししがん) 寛文3年(1663)～享保17年(1732)、和泉出身。堺の総年寄を勤める。『堺鑑』(衣笠一閑著)の不足を補い自己で調査した内容を記述・編集した。
- 2) 増補：高志養浩 芝巖の弟で儒学者。原本を添削し編集(細く2行で書かれた部分は養浩の増補)
- 3) 記載内容の抜粋：河野文吉(1907年生 堺市出身)著作の『頭註 全堺詳志』から抜粋・要約する。

*『頭註 全堺詳志』は、河野氏が『全堺詳志』を現代文体に直し注釈を付けたもの。

- ①「延喜式」の「諸陵式」には大山陵と記している。☞ この記述は間違いで「大仙陵」の記載はない。
- ②御廟は北峯で石の唐櫃がある。石の蓋は長さが1丈5寸(約318cm)、幅が5尺5寸(約167cm)、厚さが8寸(約24cm)。遺骸や明器などは見当たらず空櫃である。盗掘にあったと思われる。

【参考】前方部出土の石棺：長さが89尺(約267cm)、幅が4尺8寸(約144cm)

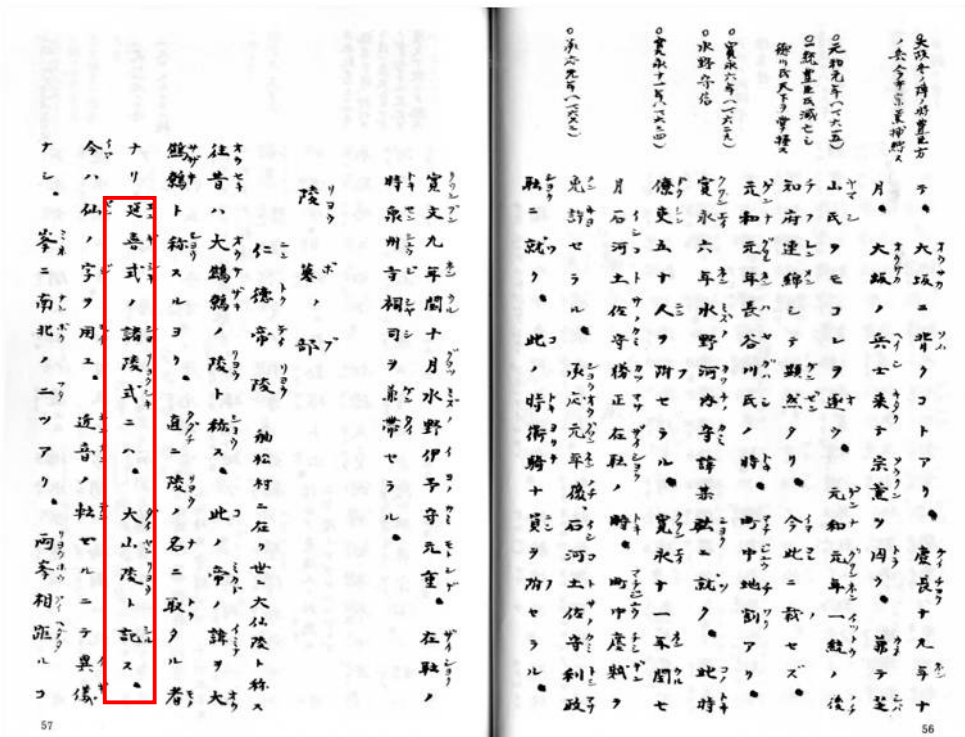
- ③清少納言の『枕草子』には仁徳陵を鶯ノ陵と記している。古は百舌鳥を鶯と訓じたようだ。
- ④仁徳帝は生前に一度天王寺の茶臼山に陵を築いた。崩御の後に百舌鳥野に葬られた。
- ⑤古、茶臼山付近は荒陵(あらはか)と呼ばれており、天王寺は荒陵山と号されている。

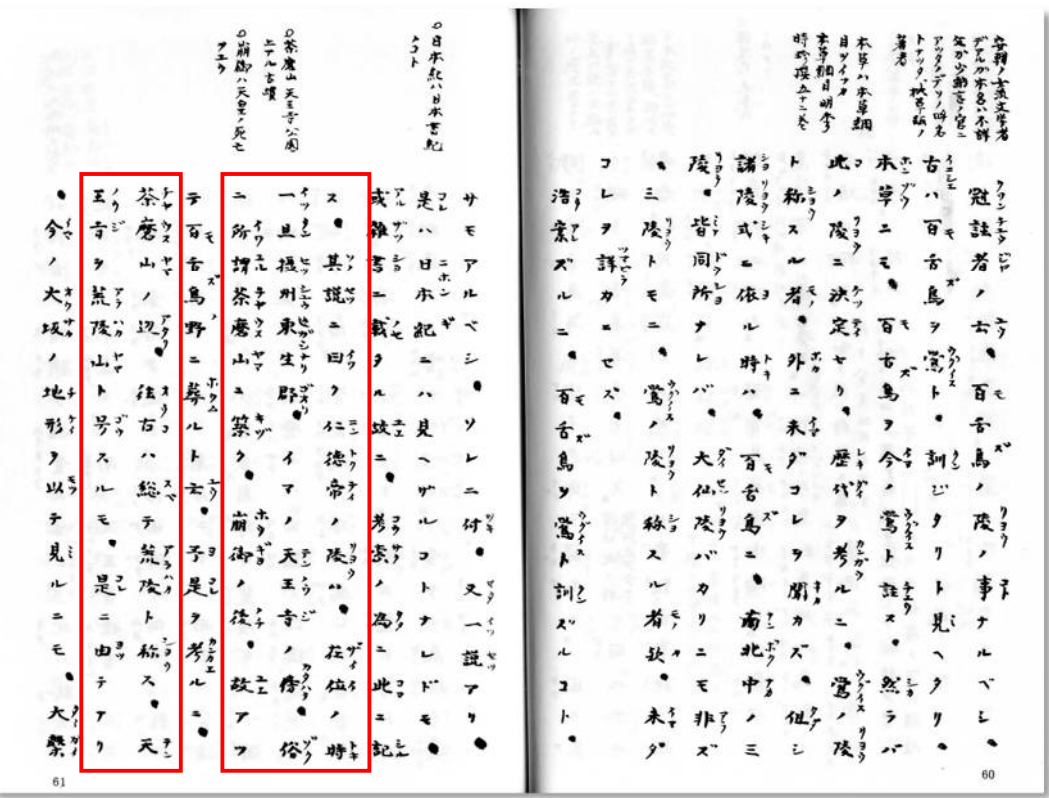
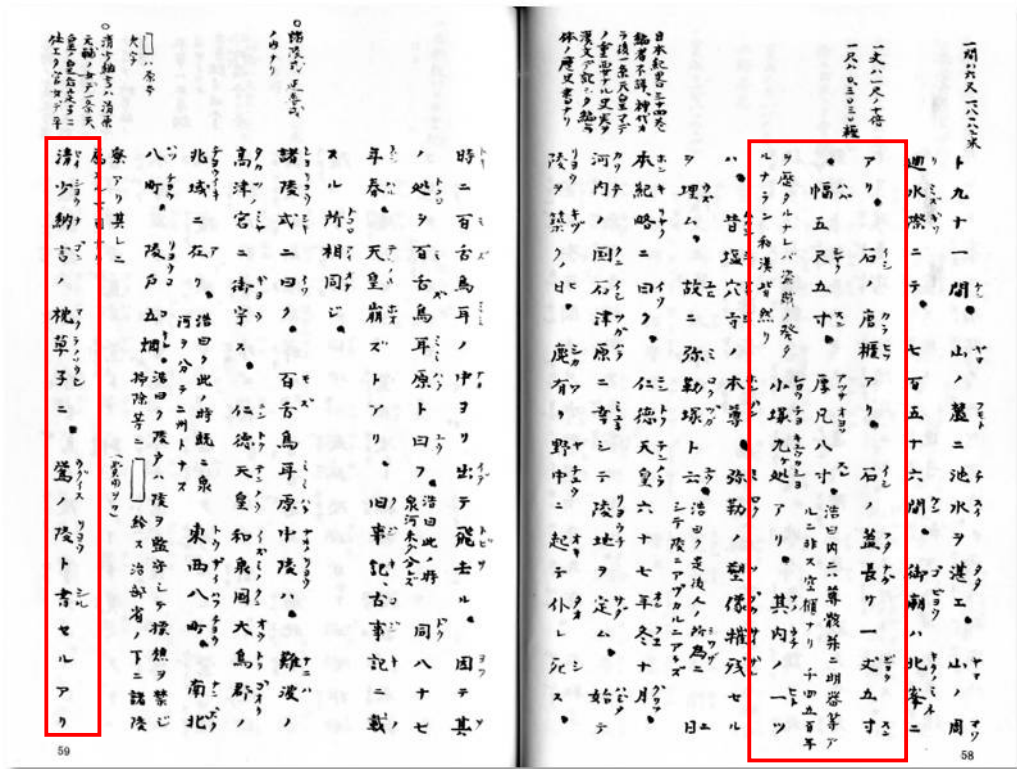
【参考】四天王寺：荒陵山四天王寺が正式名で天王寺は略名。荒陵寺、難波大寺などの別名がある。

- ⑥大坂城付近から信田(しのだ)郷までは真直ぐ一帯の高台の地であり、百舌鳥野は荒陵の一部である。
- ⑦荒陵、鶯陵は国音に近い漢字として、それぞれ「荒(こう)」、「鶯(おう)」が当てられたものである。「荒」の文字は荒廢の意味ではなく、「大きい」という意味である。(『新漢語林』の字義にも「大きい」とある。)

【参考】『学研漢和大字典』によれば、「荒」は「クワウ」、「鶯」は「アウ」と発音。

4)『頭註 全堺詳志』の仁徳陵記事の一部 (本文は河野文吉氏謄写)





2. 仁徳陵前方部石棺発見の経過に関する公文書記録

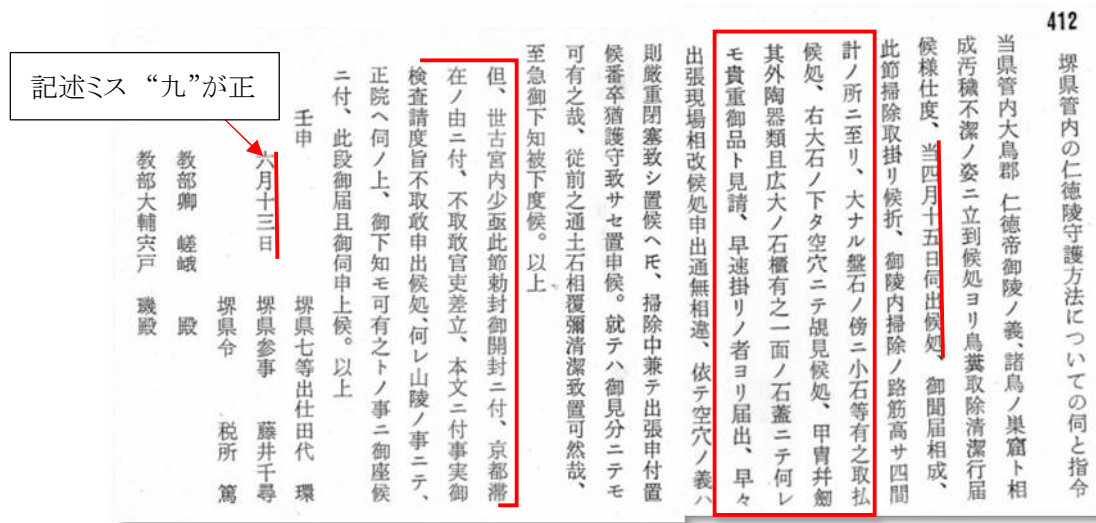
石棺発見については、「盗掘説」(森浩一氏の見方)と「自然災害説」(平林悦治氏の見方)があり結論は出ていないが、『堺県公文録』の公文書を精読すると発見の経過に違和感が残る。

【参考】 税所篤の県令在任期間： 明治4年(1871)～明治14年(1881)

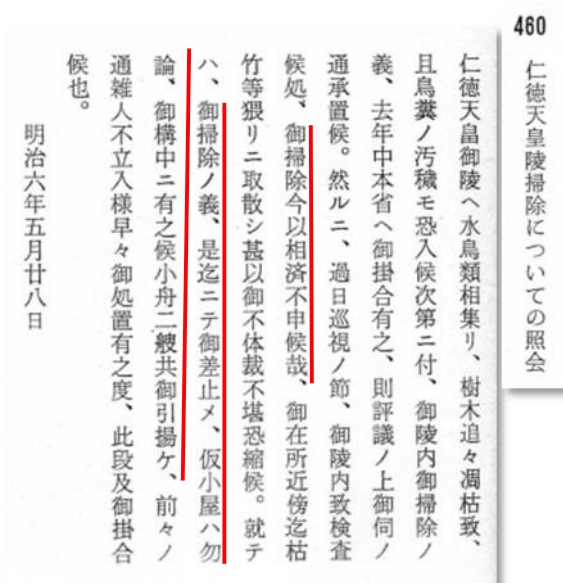
1)経過

- ①明治5年(1872) 4月15日 掃除伺い提出(412号文書の文面による)
- ②同上 9月 7日 石槨・石棺等の発見(岡村家・筒井家の絵図と文書の記述による)
- ③同上 9月13日 税所県令が守護方法について教部卿に伺い(412号文書)を提出
- ④同上 9月19日 絵師の柏木政矩が石棺・石槨の図を描写
- ⑤同上 10月11日 教部省官員が検分後、「石棺は棺ではなく、宝器を入れる石櫃である」と語ったとされている。(菅原神社神官古川躬行の手記)

*以下は、『堺県公文録 第2号』から抜粋



- ⑥明治6年(1873)5月28日 清掃が終わっておらず、掃除の打切り、仮小屋・小船の撤去を命令(460号文書)



2) 412号文書及び460号文書を通しての不自然な記述・疑惑

①大きな盤石の傍の小石を取り除くと穴が空いており覗くと、甲冑、剣、陶器類と石櫃を視認したとある。

← 小石を取り除いて覗き見る程度の大きさの穴であるにも拘わらず、6日後には柏木政矩による石槨内全体の絵図が描かれている。税所県令の独断で石槨の一部を破壊し開口したのか？
また、覗き見程度で、412号文書に報告されているように石櫃(石棺ではない)と認識し、詳細な副葬品の様子を視認できるのか？

②掃除伺いから1年後も清掃がなく取り散らかし状態であるので掃除差し止め(460号文書)

← 1年間清掃を行っていなかったことは、発掘の口実という疑念が生じる。また、仮小屋や小舟を撤去するように命令している一方、石槨・石棺・副葬品については一切触れていないことも不自然。

③古川神官の手記にある教部省官員の見解「棺ではなく宝器を入れる石櫃」としたこと。

← このように言い切るといことは石棺を開けたのであろうか。或いは税所県令が行った不敬罪となる「陵墓盗掘」を隠蔽するための詭弁だったのか。(412号文書の但し書き部分には、税所篤が調査に当たる政府官員を指名しており、不透明な関係を伺わせる。)

3. 盗掘に関する新井白石全集の記述

仁徳陵に関して高志芝殿と同様の記述が新井白石の著作にも見られる。

1) 仁徳陵の場所：『白石先生紳書巻1』(『新井白石全集 第5』に収録)

右の写真は京都大学貴重資料デジタルアーカイブより

○茶臼山 仁徳帝十月に此處に葬べしと有しに泉州堺の巽の方に百舌鳥野と云所へ納め奉りし也 依之其後こゝを荒陵と云し也 天王寺山號を荒陵山と云も此謂れ也 帝の御廟は難波津にては高津山又今の博労町平野大明神是也
『新井白石全集5』から活字化

2) 仁徳陵の盗掘：『白石先生紳書巻5』(『新井白石全集 5』に収録)

仁徳の鳥野の御陵はあばかれて石棺の蓋の石 堺の政所の庭の踏石となれりと云 *鳥野=百舌鳥野のこと 『新井白石全集5』から活字化

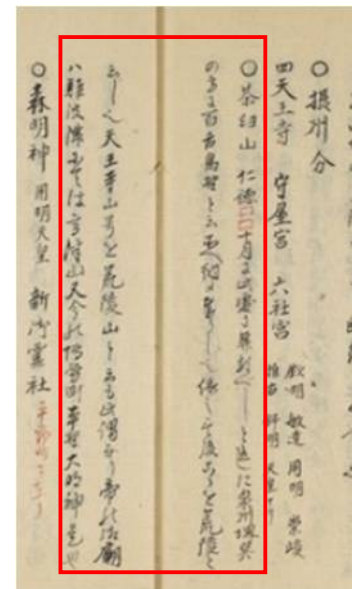
【参考】・新井白石 明暦3年(1657)～享保10年(1725) 朱子学者『折たく柴の記』などの著作

・『堺鑑』には、豊臣秀吉が度々仁徳陵で獵を行ったと記している。

3) 茶臼山古墳について

全長200mの前方後円墳。河底池は周濠の痕跡と考えられてきたが、墳丘からは埴輪や埋葬施設、副葬品などが発見されていないため古墳でない可能性もある。隣接する四天王寺境内には、茶臼山から見つかったと伝わる長持形石棺の蓋が保存されている。また、同境内発掘調査では埴輪が出土している。2009年の調査において茶臼山古墳で水銀朱を塗られた石室らしきものが見つかっている。写真は四天王寺の宝物殿前に置かれている長持形石棺の蓋：長さは約280cm、幅は約130cmで竜山石と思われる。

昭和47年(1972)府指定史跡(茶臼山古墳および河底池)



4. その他の伝聞や盗掘事件

1) 米軍占領下の仁徳陵

『大阪・いとむかし』(朝日新聞社会部編 1967)に地元で仁徳陵を管理した陵墓官守長の石田喜一郎氏の話が掲載されている。「その“聖域”に、猟銃がぶっ放された。戦後、近くに駐留した米軍兵士たちにとって、野鳥のむらがる御陵内は絶好の狩猟場だったのだ。関係者も目をつむるほかなかった。子どもは水のきれいな内堀を“仁徳プール”と呼んで泳ぎ、夜の堤防はアベック天国となった。」

← このような情勢とボストン美術館の伝仁徳陵出土品の話が相まって、GHQによる仁徳陵盗掘の噂になった可能性がある。

【参考】 金岡キャンプが造成され、浜寺には119棟225戸の家族住宅(DH)と31棟の公共施設を建設

2) ボストン美術館の伝仁徳陵遺物

①ボストン美術館関係遺物：銅鏡、環頭太刀、三環鈴、馬鐸

鏡は直径23.5cmの細線式獣帯鏡、太刀は長さ23cmの単龍環頭、三環鈴は径13cm

②「百舌鳥村百姓」持込みの遺物：銅鏡、環頭太刀の把頭、三環鈴、馬鐸2個（平林氏発表文による）

3) 仁徳陵以外の天皇陵の盗掘事例

①履中陵：昭和61年(1986)大学生らがゴムボートで濠を渡り土器を盗掘（『毎日新聞』1986.12.21）

②成務陵：康平6年(1063)興福寺の僧・静範らが陵に侵入し宝物を盗む（『扶桑略記』）

陵の修復を行い、宝物を納め返す（『百鍊抄』）

嘉永4年(1851)大和添下郡の百姓・嘉兵衛ら11人が盗掘により投獄・死刑

嘉兵衛らは、弘化元年(1844)、嘉永元年(1848)の2回、複数の陵で盗掘

③天武・持統陵：嘉禎元年(1235)群盗が穴を開けて重宝を持出。白骨・白髪を残すのみ。

女帝の御骨は捨てられ銀筥のみ持ち去り（『明月記』他に複数の文献史料）

正應6年(1293)帝の頭蓋骨を盗ったという行廣法師を召捕り（『實躬卿記』）

④推古陵：康平3年(1060)河内国司からの言上：盗人が陵を発いたこと（『扶桑略記』）

⑤聖武陵：久安5年(1149)東大寺所司からの訴え：興福寺の上座信實が陵を掘り多数の大石を運び出し（『本朝世紀』）

⑥桓武陵：文永12年(1275)発掘され、仮措置として穴を塞ぐ（『仁部記』）

⑦継体陵：弘安11年(1288)鏡等の遺物を持ち出した犯人を捕縛（『公衡公記』）

⑧その他：安閑陵(高屋城築城による破壊と盗掘)、垂仁・称徳陵(1851年の嘉兵衛らの盗掘)

【参考文献】 ・『前方後円墳 その起源を解明する』藤田友治編著 ミネルヴァ書房 2000

・『墓盗人と偽物づくり』日本考古学外史 玉利勲 平凡社選書 1992

・『盗掘でわかった天皇陵古墳の謎』安本美典 宝島社 2011

・『頭註 全堺詳志 上・下』河野文吉 広文堂 1985

・『堺県公文録 二』

・『堺市博物館館報第30号』-明治壬申年仁徳御陵前方部石槨発見顛末考- 白神典之

・『大阪 いとむかし』高尾清 朝日新聞社会部編 中外書房 1967

・『白石先生紳書 巻1 巻5』（『新井白石全集 第5』に収録されたもの）